

令和7年度 玉津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	88	58	56	4.8	6.8
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	553
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	95	72.9	60.0	64.3	58.2	65.5	4.0	3.6	7.7	4.8	3.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

調査結果から

○大阪府チャレンジテスト(中学3年生)

【成果と課題】

平均点については、各教科とも大阪府と比較して大きく上回った。5教科の合計では大阪府の平均を52.4ポイント上回り、一定の成果が見られる結果であった。

平均の無回答率においては各教科ともに大阪府平均を下回った。問題に取り組む意欲の高さが伺える結果であった。

〈国語〉

平均点は、大阪府平均を8.7ポイント上回り、一定の成果が見られる結果となった。学習指導要領の領域内容別に比較すると、

知識及び技能の内容については

「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては1.1ポイント上回っている。

「情報の使い方に関する事項」においては2.2ポイント上回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」においては1.7ポイント上回っている。

思考力、判断力、表現力等については

「話すこと・聞くこと」においては2.5ポイント上回っている。

「書くこと」においては1.4ポイント上回っている。

「読むこと」においては2.9ポイント上回っている。

〈社会〉

平均点は、大阪府平均を8.8ポイント上回り、一定の成果が見られる結果となった。学習指導要領の領域内容別に比較すると、

「地理的分野」においては4.4ポイント上回っている。

「歴史的分野」においては4.3ポイント上回っている。

〈数学〉

平均点は、大阪府平均を10.4ポイント上回り、一定の成果が見られる結果となった。学習指導要領の領域内容別に比較すると、

「数と式」の領域においては2.7ポイント上回っている。

「図形」の領域においては2.7ポイント上回っている。

「関数」の領域においては2.9ポイント上回っている。

「データの活用」の領域においては2.1ポイント上回っている。

〈理科〉

平均点は、大阪府平均を12.2ポイント上回り、一定の成果が見られる結果となった。学習指導要領の領域内容別に比較すると、

「エネルギー」の領域において1.5ポイント上回っている。

「粒子」の領域において2.6ポイント上回っている。

「生命」の領域において5.2ポイント上回っている。

「地球」の領域において2.9ポイント上回っている。

〈英語〉

平均点は、大阪府平均を12.3ポイント上回り、一定の成果が見られる結果となった。学習指導要領の領域内容別に比較すると、

「聞くこと」の領域において1.4ポイント上回っている。

「読むこと」の領域において2.1ポイント上回っている。

「書くこと」の領域において5.7ポイント上回っている。

【今後に向けて】

学力の定着については各教科とも一定の成果が見られた。今後も基礎学力を伸ばし発展的な問題への取り組みなど、個々の生徒の学力において指導に取り組んでいく。生徒アンケートの結果を見ると「普段、1日平均どれくらいの時間、本を読みますか」の質問に対し30分以上読書をしている生徒の割合が大阪府の平均より上回った。しかし、「授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある」の質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合は大阪府の割合を下回った。今後はICTを活用した授業を展開を強化し、生徒の「考える力」の向上に繋げていく。